

平成 27 年度事業報告

平成 27 年度泰山荘入所者数は定員 600 名のところ 596 名でありました。

介護保険制度が開始され既に 16 年が経過し、年々見直しが検討される中で軽費老人ホームのあるべき姿と現実とのギャップに今年も負担を感じながら推移した年でありました。毎年の課題でもあります入所者の重度化問題によって外部サービス（デイサービス、訪問介護）の利用者が増え、荘内でも食事の配膳を工夫するなど、現状に合ったサービスの提供を心掛けて運営しております。また、夫婦部屋が無くなって2年が経ち、空きが無くなり無駄なく入所者数の確保は出来てきましたが、建物の老朽化による修繕が発生してきました。27 年度は大規模な修繕は無かったものの、機械室のろ過装置やボイラー機の劣化が見受けられ今後の修繕が予測され、また各居室のトイレの換気扇が数か所壊れて来ており、こちらも徐々に修繕が予測されて来ている現状です。

精神的処遇面では、それぞれの老人には価値観の相違があるため、より多くの行事を地道に提供し自分にあったものをその中から選択してもらう事により対処していくことが現状では最善の策と考えております。松阪市が始めたボランティア「ささえさん」を取り入れるなどの工夫は行っていますが、行事やクラブの内容を常に見直し、新規の活動を考えて行き、一人でも多くの老人さんが参加し、楽しく過ごせるようにするのが現在の課題です。

一方肉体的処遇面では身体機能低下等顕著に見られるようになり今後の処遇に対応しきれない事態がより現実のものとなってきており大いに懸念されるところであります。(要支援を含む介護認定者が過半数を超える状況) 27 年度の退所者数は 10 名と多めでしたが、大半が精神面或いは肉体面での機能低下により当施設での自立生活の維持が不相当と判断された為施設替えとなった状況であり、重度化の確実な進行を改めて認識させられた形となってしまいました。

このような状況に加えて入所者の多くは「出来ればここで終末を迎えたい」という声が聞かれるなか、現状の職員配置体制下でこれまで以上の介護的な（要介護認定者）処遇を主要な業務として継続して実施することは大変困難なことであります。入荘者に対しての職員の数が少ない為、職員の負担も年々増しているのが現状です。

個人の自由意志を尊重することを前提とした軽費老人ホームにあってはあくまでも老人一人ひとりの自覚に委ねなければなりません。健全者には適切な指導や助言により「自分の健康は自分で守る」というような自立意識を啓蒙し、要介護者には心情的に複雑な気持ちが交錯するものの現実的な対処法として施設介助だけでは補えない部分を一時入院や介護保険サービスの様々なメニュー（デイサービス、家事援助、福祉機器利用）の活用等により対処し、利用者にとって「何が最善の方法なのか」を本人（又は保証人）と検討しながら 28 年度の事業計画の遂行に生かす所存であります。

- 1 入 所 8名 (家庭より6名、病院等施設より2名)
- 退 所 10名 (施設替5名)

2 階層別・出身地別状況 (28, 4, 1 現在)

対象収入による区分	人数
1 階層	35名
2 階層	1名
3 階層	5名
4 階層	6名
5 階層	1名
7 階層	1名
8 階層	1名

	男	女		男	女		男	女
松阪市	7	23	多気郡		1	伊賀	1	2
伊勢市	1	3	度会郡	2	3	県外	1	1
津市	3		志摩市		2	合計	15	35

3. 介護認定状況

要支援 1	6名	要介護 1	14名
要支援 2	2名	要介護 2	9名

4. 主な施設行事

4月	観桜会	10月	運動会
5月	ゲートボール大会 健康診断	11月	文化祭
6月	日帰り旅行 花菖蒲見学	12月	餅つき大会 クリスマス会
7月	夕食会	1月	初詣 新年会
8月	創立記念行事 納涼盆踊り大会	2月	節分行事
9月	敬老行事	3月	彼岸回向

定 例 行 事

血圧体重測定	嘱託医往診	避難訓練 (年4回)
懇話会	供養塔清掃	買物の日
生活点検	誕生会	荘内清掃

慰問・地域交流

鎌田幼稚園	七夕、敬老慰問
第4小学校	文化祭、節分、卒園記念慰問
勝笑演芸一座	ゲーム等交流慰問
クレッシェンド三雲	落語、漫談、手品
英幸会ほか	松阪ソーラン節
松阪ハーモニック	舞踊、歌、楽器
ジュニアバンド	金管バンド慰問
松阪市社協	傾聴ボランティア
松阪市ささえさん	パッチワーク、将棋